

健康だより

ヨガの神様

ヨガはインド発祥です。主な神様を簡単にご紹介をしたいと思います。
諸説様々な文献がありますので、一つのご参考までにご覧下さい。

ブラフマー神

別名

ブラジャーパティ（創造物の主）、
スヴァヤンブー（自らを創造したもの）、梵天など。

役割

ヒンドゥー教3最高神の一人。創造神。
宇宙の原理を司る神。

日本での名前

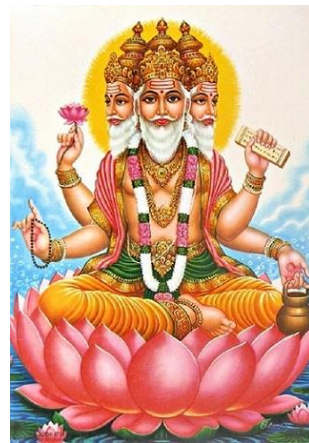
梵天

配偶神

妻：サラスヴァティー神（弁財天）

神話

4つのヴェーダを象徴する4つの顔と4本の腕を持ち、水鳥ハンサに乗った赤い肌の男性（多くの場合老人）の姿で表される。宇宙の根本原理ブラフマンが人格神として神格化されたといわれています。世界の創造者。
ブラフマー神は元々5つの顔であったが、無礼な話し方をしたという理由でシヴァ神を怒らせ、彼に1つ切り落とされて4つになったという説もあります。



ヴィシュヌ神

別名

ラーマ、クリシュナ、那羅延天など。

役割

ヒンドゥー教の3最高神の一人。
維持神・宇宙の維持を司る神

日本での名前

毘紐天・韋紐天・あるいは那羅延天



配偶神

妻：ラクシュミー神

神話

「宇宙を散歩で歩く神」「唯一者」「原人」が、民間の英雄神クリシュナと合体して生まれた神。秩序の守護神。

青黒い肌と蓮華の様な眼、4本の腕にはそれぞれ「円盤」「法螺貝」「棍棒」「蓮華」を持った男性の姿で表される。またガルダ（金翅鳥）に乗って空を飛ぶ姿もよく知られている。

ヴィシュヌ神は、アヴァターラ（化身）と呼ばれる10の姿に変身して地上に現れるとされている。

「魚（マツヤ）」

「亀（クールマ）」

「猪（ヴァラーハ）」

「人獅子（ヌリシンハ）」

「矮人（ヴァーマナ）」

「斧を持ったラーマ（パラシュラーマ）」

「ラーマ」

「クリシュナ」

「ブッダ」

「カルキ」

名前：シヴァ神

別名

マハーデーヴァ（偉大なる神）、
シャンカラ（恩恵を与える者、救世主）、
ナタラージャ（舞踊王）など。

役割

ヒンドゥー教の3最高神の一人。

破壊神。破壊を司る神

日本での名前

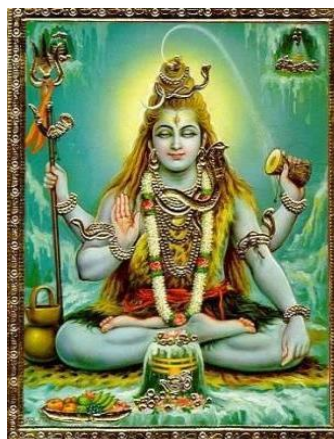
大自在天・大黒天・大国主・伎芸天等

配偶神

妻：パールヴァティー神、息子：ガネーシャ神

神話

ヴェーダの災害の神ルドラが前身。ヨガ・武術・ダンスなど様々な技芸の開祖。



世界の破壊を司るハラ（破壊者）の面と、人々に恩恵を授けるシャンカラ（吉祥なる者）と呼ばれる異なる2つの側面を併せ持つ神とされている。ネガティブなエネルギーを破壊し、解脱に導くヨーガの神様。

サラスヴァティー神

別名

ガヤトリー、サヴィトリー、スバガなど。

役割

ヒンドゥー教の女神の一人。

学問・音楽・芸術を司る女神

日本での名前

弁財天

配偶神

夫・ブラフマー神

神話：

聖なる川・サラスヴァティー川の化身であり、最高の母・最上の女神と謳われ、作物を实らせ富をもたらす川の女神とされる。

また「流れる川」から、流れるもの全て（言葉・弁舌や知識、音楽など）の女神ともされる。

ブラフマー神の妻であるが、そもそもはブラフマー神が自らの体からサラスヴァティー神を造り出したが、そのあまりの美しさのため妻に娶ろうとした。逃れるサラスヴァティーを常に見ようと自らの前後左右の四方に顔を作りだした。さらに、その上に5つ目の顔（後にシヴァ神に切り落とされる）ができた時、その求婚から逃れられないと観念したサラスヴァティーは、ブラフマーと結婚し、その間に人類の始祖マヌが誕生した。



ラクシュミー神

別名

パドマーヴァティー（蓮を持つ女性）、シュリー（吉祥）、チャンチャラー（移り気）など。

役割

幸運と美、富と豊饒の女神

日本での名前

吉祥天



配偶神

夫・ヴィシュヌ神

神話

乳海攪拌の際に誕生し、世界の母（ローカマター）や海より生まれる者（ジャラディジャ）とも呼ばれ、天地創造のときには蓮の花の上に乗って浮かんでいたともいわれる。常に夫であるヴィシュヌ神に従い、ヴィシュヌ神が多くのアヴァターラ（化身）をあらわすとラクシュミー神もその一つ一つに依りて姿を変えるといます。

パールヴァティー神

別名

デーヴィー、カーリー、ドゥルガー、ウマー、ガウリー、バイラヴィなど。

役割

愛と美を司る女神。

日本での名前

烏摩妃または波羅和底

配偶神

夫・シヴァ神、息子・ガネーシャ神



向かって左：シヴァ神

右：パールヴァティー神

神話

シヴァ神の最初の妻サティーの転生とされ、穏やかで心優しい、美しい女神といわれる。

前世のサティーの時にもシヴァ神と夫婦だったが、その時は親の反対を押し切り結婚した故に、結婚後も認めなかったサティーの父はシヴァ神を軽蔑し続け、それを悲しんだサティーは自殺してしまいます。

のちにパールヴァティー神として転生し、シヴァ神と結ばれ夫婦仲も良好だったそうです。

ガネーシャ神

役割

知恵の神・繁栄の神

日本での名前

歓喜天、聖天。



配偶神

父・シヴァ神、母・パールヴァティー神

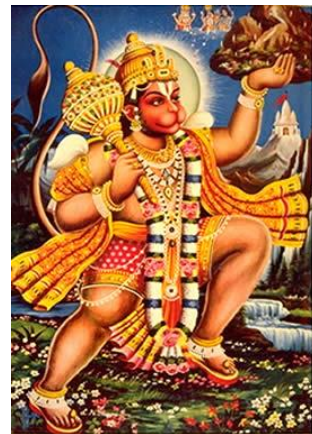
神話

パールヴァティー神（母）が身体を洗い、その身体の汚れを集めて人形を作り命を吹き込んで生んだ息子とされる。パールヴァティー神の命で、ガネーシャは浴室の見張りをしていたが、シヴァ神（父）が帰還。ガネーシャはそれを父・シヴァ神と知らず、入室を拒んだ。シヴァ神は激怒し、ガネーシャ神の首を切り落として遠くへ投げ捨ててしまう。パールヴァティー神に会い、それが自分の子供だと知ったシヴァ神は、投げ捨てたガネーシャの頭を探しに旅に出かけるが見つめることができず、旅の最初に出会った象の首を切り落として持ち帰り、ガネーシャの頭として取り付け復活させたとされる。

ハヌマーン

役割

猿神・風の神・戦いの神



神話

インド神話におけるヴァナラ（猿族）の1人。風神ヴァーユの化身であり、ヴァーユが猿王ケーシャリーの妻アンジャンーとの間にもうけた子とされる。変幻自在の体は、大きさや姿を自在に変えられ、空を飛ぶ事もできる。大柄で顔は赤く、長い尻尾を持ち雷鳴のような咆哮を放つとされる。叙事詩「ラーマヤナ」では、主人公ラーマを幾度となく助け、猿族の中でも最も優れた戦士、弁舌家とされている。

孫悟空の元ともいわれる。